

平成27年度 第2回 緩和ケア勉強会のご報告

今年度の第2回緩和ケア勉強会は、6月11日に開催いたしました。出席人数は85名、うち、院内38名、院外47名でした。

今年度の年間テーマは「症例に学ぶ ～多施設・多職種で関わる緩和ケア～」です。第2回目の今回は「下顎骨肉癌・認知症患者の終末期」～多職種カンファレンス後経口摂取を尊重し在宅療養へ移行した事例～というテーマで、デスクカンファレンスを行いました。診断から治療期を担当した主治医、看取りまでの在宅療養を支えた在宅医療機関のスタッフより、それぞれの立場からの患者・家族との関わりをお話していただきました。経口摂取ができず、PEGを造らない患者さんを退院させる主治医の葛藤や、認知症ということもあり、痛みの評価をしにくかった患者さんの表情やひとつひとつの行動を見て、ケアにつなげていったという報告もありました。入院していた病棟の看護師の参加もあり、退院後の様子を知ることができて、笑顔の写真を見ることができて大変良かったとの言葉を頂きました。

今回はアンケートでの感想を紹介させていただきます。

アンケート結果報告

- ・ 自宅で息子さんが看取る事ができて良かったとの言葉が聞けるのはよい看取りができた証拠ではないかと思えます。
- ・ 患者・家族の希望に沿って、多職種が関わって残された時間が悔いのないものになった事は、患者・家族にとってとても幸せなことだと思いました。そのためにそれぞれの職種が、患者・家族のことを思いながら援助を考えていく姿勢・・・素敵だと思いました。
- ・ 在宅へ帰ると苦痛が取れ、一番の緩和ケアになるということ。
- ・ 病院での治療の限界から、息子さんの家へ・・・との思いが多職種での連携により叶えられた。
- ・ 病棟では辛い表情ばかりでしたが、デイサービスでの穏やかな表情を見ることができてとても嬉しかったです。デイサービスでは食事が進み、笑顔が見られたと聞いて本当に良かったと思いました。

勉強会の様子



次回の勉強会：8月20日（木） 18時～19時半
内容：「家族介護力不足を多施設で支援した事例」

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もどしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp